



図Ⅱ-6 乾燥餌料試験の殻高と体重の推移

5. 種苗の活力判定試験

1) 目的

放流種苗の活力（健苗性）の有無がその後の再捕率に影響することが知られている。そこで、中間育成後の放流稚貝の活力を判定するための基礎資料として、放流群の単位時間当たりの反転率について調べた。

2) 方法

平成7年7月4日と11月15日、平成8年3月14日に放流した平成5年～平成6年度生産貝を試験に用いた（表Ⅱ-9）。試験は各放流群の中から30個体ずつ無作為に選び出し、40ℓ容器に横倒しにした状態で収容した。全個体が横倒し状態になったのを確認後、単位時間あたりに反転した個体の数を測定した。

表Ⅱ-9 活力判定に用いた放流群のサイズ

生産年度	殻高 (mm)	放流場所(年月日)
	平均 (最小～最大)	
平成5年度	46.9 (38.3～54.4)	川平湾 (95/7/4)
平成6年度	28.7 (23.7～37.9)	川平湾 (95/7/4)
平成6年度	32.1 (26.4～40.0)	白保沖 (95/11/15)
平成6年度	25.3 (19.7～38.6)	川平湾 (96/3/14)

3) 結果及び考察

放流貝の活力判定結果を表Ⅱ-10に示した。各放流群は1分以内に10～47%の稚貝が反転し、2分で13～63%、5分で43～100%、終了時の10分間に80～100%の個体が反転するのを確認した。また、4分間に反転した活力を福岡県（1993）の活力指数で求めると、平均5年度生産と平成6年度生産の7月及び11月放流群では0.57～0.70と昨年度と同等の値であったが、3月放流群は0.23と活力の弱い種苗であった。